

市民と野党の共闘で政治  
を変えよう。憲法、くらし、  
平和を大切にする都政を

# 都民がつくる革新都政

2020年7月15日

発行：革新都政をつくる会  
発行人・中山 伸  
〒170-0005 豊島区南大塚 2-33-10  
東京労働会館5F 電話 (5978) 4031  
HP:https://www.kakushintosei.net  
E-mail: info@kakushintosei.org  
(1部 25 円、送料は別途)

## 宇都宮さん大健闘！全都で市民と野党の共闘実現

2020年7月6日

2020年東京都知事選挙の結果について（談話）

革新都政をつくる会  
事務局長 中山伸

宇都宮けんじ都知事の実現をめざして支持をいただいたすべての都民のみなさん、あたたかいご支援と激励をいただいた東京・首都圏・全国の労働組合・市民団体のみなさんに深く感謝申し上げます。

未曾有の新型コロナ禍のなかでたたかった都知事選挙において、革新都政をつくる会は、「市民と野党の共闘の実現で小池都政の転換を」かけ、市民と野党の共闘の候補者としての宇都宮けんじ候補の必勝をめざして総力をあげてたたかいました。

選挙戦では、市民と野党の共闘が各地で発展し、選挙戦の局面をおおきく変えるとともに、新型コロナ対策をはじめとする都民のいのちとくらしを守る政策と「正直・公正」な宇都宮候補の訴えが論戦をリードしました。結果は、宇都宮候補が844,151票を獲得。小池百合子候補が再選されました。

今回の都知事選では、コロナ危機への都民の不安がたかまるなか、都民のいのちとくらしを守る都政のあり方が最大の焦点となりました。宇都宮候補はこの選挙を「生存権がかかった選挙」と位置づけ、全面的なPCR検査の実施や「自粛と一体となった補償」など抜本的な新型コロナウイルス対策の提案をはじめ、都民の命とくらしを守る政策を掲げてたたかいました。

同時に、浜矩子さん、五十嵐仁さん、永山利和さんが代表呼びかけ人となった「市民と野党の共闘の実現で、都政転換をめざす呼びかけ人会議」の呼びかけで、立憲民主党、日本共産党、社民党、新社会党、緑の党による市民と野党の共闘が東京において実現。さらには国民民主党の幹部、野田佳彦前首相による支援、無所属の区市町村議員、市民連合や地域の革新都政をつくる会などとの共闘が日に日におおきくひろがったことは歴史的意義をもつものです。

また、選挙戦を通じて、東京オリンピックを優先させ初動を誤った新型コロナウイルス対策とともに、築地の豊洲移転、東京オリンピック見直し、情報公開、待機児ゼロなどの都民との約束を反故にしたこと、都営住宅や少人数学級などの切実な都民要求に背を向けてきたこと、都立・公社病院の地方独立法人化の強行など小池知事の4年間の都政運営の実態が都民の前に明らかにされたことも重要です。

小池候補は、選挙戦にあたって都民の批判を恐れ、オンライン選挙に徹するとして都庁に立て籠もり、都民の前での論戦を回避したことは、民主主義の根幹である選挙を冒涇するものであり許されません。

私たち革新都政をつくる会は、今回の選挙で実現した野党と市民の共闘をいっそう発展させ、コロナ危機から都民のいのちとくらしを守り、都民要求実現、憲法を生かし「都民が主人公」の都政を実現するために、決意をあらたにひきつづきたたかいを力強くすすめることを表明します。



5日、選挙事務所で宇都宮さんの健闘をたたえる野党各党国会議員（写真：しんぶん赤旗提供）

2020年都知事選挙は、新型コロナウイルス感染症拡大が世界的規模で長期化する未曾有の情勢のもとでたたかわれました。  
革新都政をつくる会は、「市民と野党の共闘で、都政の転換」をたたかいの基軸にすえ、「呼びかけ人会議（2面参照）」と連携して、都政の転換を訴え、市民と野党の共闘の候補者としての宇都宮けんじさんの必勝をめざして総力を挙げてたたかいました。

選挙戦を通じて宇都宮候補の「都民の生存権がかかった選挙」という訴え、具体的な解決の道筋を示したコロナ対策、都民の切実な要求に真摯に応える姿勢は論戦をリード、都民の熱い共感をひろげました。結果、宇都宮候補は84万4151票

を獲得、小池百合子候補について2位を得る大健闘となりました。宇都宮候補必勝態勢の確立から投票日まで、1カ月余の短期決戦でしたが、コロナ禍の困難なもので、感染防止に万全をつくししながら、各団体、地域は次々に支持決議をあげ、急速に共同を広げ、宣伝、宇都宮支持拡大を全力で推進しました。革新都政をつくる会が作成して、ひろめてきたパンフレット「2020年都知事選挙 私たちの提案」小

### 新型コロナ対策

### 公的責任果たさず、感染拡大 小池都知事の責任重大

池都政黒書は選挙戦の中で広範に活用され、要求「フラスター」は街頭で都民の共感を広げました。また、市民と野党の共同のたたかいは通じて、都民不在の都政の実態と都民要求実現のたたかいが共有されたことは、大きな財産であり、今後の都政転換へのおおきな原動力となることは間違いありません。市民と野党の共闘をさらに発展させ、国政、都政の転換に全力を挙げようではありませんか。

### \* 青い空 \*

再選された小池知事は「4年間の都政が評価された」と胸を張るが果たしてそうだろうか。そもそも小池知事は「コロナ対策等の公務を優先する」として選挙戦をオンラインでの活動に特化。「論戦」に背を向け、都民に自らの信任を正面から問うていない。言いつばなしの「築地は守る、豊洲を活かす」や戦略を持たない「コロナ対策」などがこれで免罪されたとは言えないのだ。しかしその公務で「視察」と称する業者団体回りや民放でのCM出演を行い、メディアから「公務」の名による「選挙活動」と皮肉られた。CMに投じた都税はおよそ9億円。さすがに週刊誌はこれを批判した。▼民主制では知事が持つ権力の源泉は主権者による直接選挙での選任にあるとされる。だがその直接公選に真摯に向き合わず手にした権力に政治的正当性があるとは思われない。コロナ禍の今、都民から一時的にせよ「私権」を委ねられる小池知事が、政治的野望を隠してその権力の椅子に座っているのだ。▼権力は都民の日常と未来に「刃」を用いて介入する。希望は何か。それはこの政治戦で都民と政治勢力が結びつき、個人の尊厳を擁護する都政を目指す草の根からのうねりがあったことだ。（駒）

### 傍聴にいこう

### 都議会第2回臨時会

開会7月17日(金)  
～閉会27日(月)

本会議・委員会は  
13:00 開会

たPCR検査をはじめ都立・公社病院や保健所の拡充、「自粛と一体となった補償」など都民の生命と暮らし・営業を最優先にする政策を提案しました。一方、小池知事は対策を講じていると強弁するだけで、全面的PCR検査の実施や発熱外来の拡大、公的医療や公衆衛生の体制の強化、「自粛と一体となった補償」などの抜本的対策と都民の切実な要求の実現を拒みませんでした。

そもそも東京での感染拡大は、小池知事が7月に開催予定だった東京オリンピックを最優先することから「爆発的感染拡大」の危険が通知されていたにもかかわらず、これを伏せ、オリンピックの延期が決つてから、ようやくこれを記者会見の場で明らかにするという、自治体の長としてあるまじき態度が招いたものということができません。

さらに、いまなお全面的なPCR検査や「自粛と一体となった補償」などの公的責任を放棄し、「自衛」「自己責任の問題にすりかえよう」としている小池知事の責任は重大です。



— 検証 —  
革新都政  
その後

～連載 第22回

小池都政4年③  
裏切られた都民との約束

今回の選挙では、新型コロナウイルスの対策をはじめ切実な都民要求に都政がどう立ち向かうかが問われました。同時に、小池都政の4年の都政運営の是非、さらには小池知事が前回選挙で都民にした約束が守られたのかどうかという問題も、厳しく問われることとなりました。

築地を守る

前回選挙で争点の一つとなった築地市場の移転問題。その背景には、食品市場として不適格な土壌汚染と液状化の危険に対する都民の不安、建設費の膨張と大手ゼネコンによる談合への都民的批判の巻き起こりがありました。これに対して小池知事は、「いったん立ち止まって考える」と表明。知事就任後には「豊洲移転には安心・安全が不可欠といひ、くわえて「豊洲」は物流拠点にする「築地」は食のテーマパークを備えた市場にする」と表明。「築地を守る」ことを都民に約束したのです。

ところが小池知事はその後、態度を一変させ、都民との約束を反故に

オリンピック開催計画

「2020年東京オリンピック」は新型コロナウイルスの感染拡大のもとで延期となりましたが、前回選挙では、IOCが求めている「簡素な大会」新規建設をさげ既存の施設や仮設施設の活用を基本とする「方針」に東京が真摯に答えるのが問われ、メインスタジアム（新国立競技場）やアクアティクスセンター（水泳競技場）、選手村など、目白押し巨額の新規建設施設の抜本的見直しが必要となりました。

これに対して小池知事は「都民のため、五輪の予算負担は試算石となる」と公言、公約に「五輪関連予算の運営の適正化」

情報公開は「1丁目1番地」

前回選挙は柳添前知事の豪華海外出張、公用車の私的利用、政治資金による私的旅行や美術品の購入など都政の私物化がつきつきと明らかに

なり、その都政運営のあり方、とりわけ黒塗りの情報公開など露骨な情報隠しが大問題となりました。これに対して小池知事は「都政の透明化を掲げ、情報公開は都政改革の「1丁目1番地」といひ、「都政の透明化」を売り物に都知事選挙をたたかいました。

待機児ゼロ

4年前の選挙では待機児対策が都政のおおきな課題となっていました。こうしたもとで小池知事は「7つの0を目指します」(選挙公報)の公約を掲げ、そのトップに「待機児ゼロ」

をあげ、都民にその実現を約束したのです。ところが小池知事は知事になると、財界や国が求める規制緩和は熱心にすすめるものの待機児解消のための対策を講じようとはしてきません。このため待機児問題は解決に向かわず今年度は1万8000人(本来の基準・旧基準)にも上っているのです。しかも、今回の選挙では「待機児ゼロ」の公約は掲げられませんでした。

卯月はじめ

局面を動かした  
呼びかけ人会議

すべての小選挙区で共闘確立

今回の都知事選挙では東京ではじめて市民と野党の共闘が成立。しかも25の衆院選挙区のすべてで確固とした共闘が構築され、共同のたたかいが全都でとりくまれたことは、今後のたたかひにつながるおおきな成果となりました。

怒りの声がだされ、3氏を代表呼びかけ人とする「呼びかけ人会議」が立ちあげられました。その後、呼びかけに答えて参集した呼びかけ人は憲法学者の小林節さんをはじめ421人、賛同者が150人にのぼっています。

小林節さんのメッセージ動画4万超の視聴

ユーザーの9割が34歳以下

呼びかけ人会議の若手メンバーがつくったTwitterアカウ

な市民の願いを宇都宮候補に託す動画を掲載。配信された動画には、「宇都宮さんが都知事となった東京を見てみたい」など、たくさんの若い方から賛同の声が上がりました。Twitter上でユーザーに表示された回数をあらわすインプ

TOPICS

労働組合の上部組織を超えて宇都宮支持  
革新都政実現めざす労働者連絡会

東京地評などの労働者が都政の革新をもとめてとりくみをすすめている革新都政をめざす労働者後援会では、小池支持を決めている労働組合の職場で働く仲間にも、宇都宮候補支持を訴え、支持をひろげました。

そのなかで「宇都宮候補がPCR検査の徹底や都立病院や保健所の拡充、福祉の現場への財政支援などを提案している」ことなどを訴えると、管理職の人が宇都宮候補の支持を約束してくれ、小池知事が都立・公社病院の地方独立行政法人化を強行しようとしていることを紹介すると「小池知事はパフォーマンスが過ぎる」と宇都宮候補支持に変化、4年前、小池知事の追っかけをしていた女性も小池知事の「自粛」の対応に「握手をしていたのが恥ずかしい」と支持を表明するなど変化が生まれました。

全国から支援の輪

全国各地から市民と野党の共闘でたたかう都知事選をわがごとくとして、幅ひろい支援が寄せられました。6月26日には、全国・首都圏・東京・労組、民主団体決起集会が開催され、宇都宮けんじ候補が駆け付け、市民と野党の応援でのウイングのひろがりを受け都民を守る都政を実現する決意が表明されました。小田川義和全国革新代表(全労連議長)は、「勝利は私たちの奮闘にかかっている。市民と野党の共同を進化させたかおう」と呼びかけました。全国と東京の労働組合、民主団体、神奈川、千葉、埼玉の隣県からの支援が次々と寄せられるなか、全国・首都圏・東京革新懇は、総行動を二波にわたっておこない、統一行動が展開されました。



住民追いだし、商店街潰しの道路建設やめて  
その財源を新型コロナウイルス対策に

住民追いだし、商店街潰しの道路建設やめて

知事選挙がはじまった6月24日、東京都特定整備路線全都連絡会が、住民追いだし、商店街潰しの都市計画道路特定整備路線の建設を中止し、その財源を新型コロナウイルス対策に活用することを求める要請を東京都に対しておこないました。

特定整備路線(2.8路線25km)は石原都政が3・11東日本大震災後に、「防災」を多目に突進、建設をうちだしたもので、住宅密集地を分断大山ハッピーロード商店街や十条商店街などを壊す計画で、各地で住民の反対運動がとりくまれ現在、4路線5地域で法廷闘争がたたかわれています。要請では、国の緊急宣言解除後も感染拡大が広がっているもとで、徹底したPCR検査や都立・公社病院、保健所の体制強化、「自粛と一体の補償」などが急がれているとして、不要不急で住民追い出しの特定整備路線の建設を中止し、その「財源をコロナ対策に活用する」ことを求めています。

知事選挙では、宇都宮候補が特定整備路線をはじめ不要不急の道路建設を見直し、コロナ対策に活用することを提案しました。